

平成25年度 串間市立笠祇小学校 評価について

【知】

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手だて	自己評価		結果の考察・分析 及び 改善策等	学校関係者評価
				指標別	総合		
学ぶ意欲の向上と確かな学力の定着	1 学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力など、学力向上を図る。	① 単元テスト（国語・算数）において、80%以上の児童が平均80点を達成する。【単元学習テスト】 ② 児童主体の分かる授業を目指し、児童の80%以上が授業に対して肯定的な評価をする。【研究授業時の児童評価シート】	○ 年6回以上の研究授業を設け、教師による評価、児童による評価を実施する。それをもとに課題を明確にしながら、教師一人一人の授業改善を図っていく。児童の学力向上を目指す。 ○ Web単元学習評価システムを活用しながら、学習意欲を高め、授業改善に努める。 ○ 児童の思考力を高める授業実践に取り組んでいく。	3	2	○ 教師、各個人2回の年6回と、全校による道徳授業の計7回の研究授業を実施した。教師1人1人の授業課題を明確にしながら、授業力を高めることができた。それぞれの授業において改善が見られた。また、更なる課題も浮き彫りになってきたので、今後の授業改善に生かしていく。 ○ Web単元学習評価システムの活用はできたが、発展プリントの活用の在り方に今後、改善が必要である。 ○ 以上の取組により、児童の単元テスト80%以上の児童が平均80点を達成するに関しては、100%の達成率であった。また、児童のアンケートでも、肯定的な評価が100%であった。	
	2 読書意欲の向上を図る。	③ 児童の読書活動への意欲を高め、個に応じたレベルで読むことができる。【読書カード】 【年間】 低学年～100冊 中学年～70冊 高学年～50冊	○ 多読賞を設け児童の読書活動への意欲を高める。 ○ 児童のお薦めの本を紹介させたりすることで読書活動への意欲を高める。 ○ 朝の読書・読書月間等を通して本への関心を高め、読解力や語彙力を身に付けるための素地をつくる。	2		○ 朝の読書や読み聞かせにより読書への意欲が高まっている。読書量は、どの学年も各学年の年間の目標冊数を上回っている。 ○ 家読週間により、読書活動への関心が高まっている。しかし、発達段階に応じた本の選択が出来ていないため、読解力や語彙力を身に付けるためにも、教科書に載っている本の紹介等が必要である。	

【徳】

2 思いやりのある豊かな心の育成	1 気持ちのよいあいさつや返事ができる児童を育成する。	児童・教師・保護者の80%が肯定的な評価をする。 【ふりかえりカード】	○ あいさつについての指導強調週間を設定し、ふり回りカード等を活用しながら指導の徹底を図る。	2	○ 学期末に振り返りカードを使って、気持ちのよいあいさつや返事ができたか確認した。大きな声であいさつができるようになったが、個人差がある。あいさつの大切さについて継続して指導していく必要がある。	○ 挨拶に関して、児童に地域で会った時、大きな声で挨拶をしてくれるので気持ちがいい。挨拶はよくできている。
	2 自尊感情をもち、自分に自信をもてる児童を育成する。	・ 児童が「自尊心の自己評価カード」で80%の児童が、自己肯定感をもつ。	○ 他者との比較ではなく、自分なりの目標の達成を目指すように支援する。 ○ 自分のよさや個性を認識する場面や経験を増やし、ありのままの自分を受け入れられるようにするとともに、自己評価が高まるように具体的な場면을捉えて褒める。 ○ 保護者に学校で意欲的に取り組んだ成果をきめ細やかに伝え、家庭でも認め、褒めてもらうようにはたらきかける。	3	○ 串間市が制定している教育の日に、児童に自己肯定感を感じているかどうかのアンケートを行ったところ、約97%の児童が自分の良さやがんばりを認められ、自信となったと答えることができた。この背景には、本校の児童の自己肯定感の不足という実態を年度当初に保護者に説明し、改善策を示唆したことや、参観日や学級通信などを効果的に活用して、児童を認めるよう勧めたことにある。学校職員は97%、保護者は86%が児童を認めたり、努力を労うようになったと回答した。次年度も、継続して、児童の自己肯定感を一層高めたいと考える。	
	3 コミュニケーション能力を育成する。	他校との交流学习や地域の方々や施設等との交流活動を年10回以上実施し、児童の表現力の向上を図る。 【交流学习の回数】	○ 交流学习、合同学習、集合学習等を計画的に実施していく。 ○ 交流学习において、表現力を意識した活動を取り入れていく。	3	○ 本年度は、福島小学校との交流学习を1学期3回、2学期5回、3学期3回の交流授業を行ってきた。北方小学校との交流学习も実施した。特に、古竹地区に伝わる「てべす踊り」について他校の児童に教えるという活動を通して、表現力の育成を図ることができたが、今後より一層表現力を意識した交流を計画していく必要がある。地域との交流活動に関しては、地域の方々のご協力の下、牛の講話を3回、そば作り、校区内ウォークラリーなど、多くの活動を実施することができた。	

【体】

3 健康・安全教育の充実と体力づくりの推進	1 個に応じた体力のレベルアップを図る。	「宮崎県体力向上目標設定システム」を活用し、児童一人一人にあった取組を促し、児童の80%が8種目中6種目で個人到達目標を達成する。 【体力テスト】	○ 定期的に体力の実態把握を行い、授業改善の工夫を行う。 ○ 体育学習における体力を高める運動の充実に努める。	2	○ 定期的に体力測定を行い、体力の伸びを見る機会を設けたが、なかなか改善されなかったものもある。課題の見られるものについては、授業の初めに体力向上につながる運動を取り入れ、継続して実践できるようにしていく必要がある。 ○ 家庭向けに、課題の見られる力を高める運動を紹介し、日々の積み重ねが体力向上につながるように、家庭との連携を充実していく必要がある。	○ 児童が、外で遊ぶ姿を見かける。この外遊びが体力向上につながるのではないかな。
	2 安全な生活についての意識を高めさせ、危険予知能力を育てる。	安全に関わる指導を年3回以上の実施を目指す。	○ 専門機関と連携し、児童の危険意識を高める。 ○ 安全マップを作成・活用し、児童の安全意識を高める。 ○ 実地指導を行い、実践的な力を身につけさせる。	2	○ 交通安全協会や串間市消防本部から外部講師を招き、児童の危険意識を高めることができた。 ○ 安全マップを年度当初に作成し、安全指導の充実を図った。 ○ 交通安全や防災の指導を充実させることができたが、日常生活での安全な行動について指導していく必要がある。	
	3 健康保持のための感染防止や正しい食習慣の定着を図る。	児童の100%が「弁当の日」の計画に沿って実践する。 【弁当の日】	○ クラブ活動・家庭科等を通して、食育の指導を実施し、児童の食に関する指導の充実を図る。 ○ 栄養教諭との連携を図り、専門的な食の指導を図る。	3	○ 栄養教諭による授業やクラブ活動、給食指導集会等を通して食に関する指導を充実させ、児童の100%が「弁当の日」を実施することができた。 ○ 早寝早起き朝ごはんを定着させるため、10日間の「かさっこチャレンジ」を2回実施し、児童の健康意識の向上を図った。定着のためには、今後も継続した指導が必要である。	